

■平成30年第2回行財政評価委員会評価結果(平成30年度地方創生推進交付金事業)

交付金事業	要素事業	評価区分	意見・コメント
奥河内観光地域づくり推進事業	①「奥河内くろまるの郷」観光プログラム推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種体験プログラムは有効であると思う。リピーター創出にもつながる。 ・平成29年の客数増加に関して、今後の展開を考えるうえで、どのような方々がどこへ何を求めてきたのか分析と検討が求められると考えます。 ・全体として観光という概念で今後もとらえて良いのかという気がします。これは仮説ですが、特にインバウンドの訪客と、市民の求める体験や活動というところで、取り組む内容などが異なってくるのではないかと考えています。 ・施設来訪者やイベント参加者の増加について評価できる。 ・「道の駅奥河内くろまるの郷」の盛況の様子は地域住民の声として実感でき、来訪する人の増加という数値を裏付けていると考える。
	②奥河内魅力創出事業	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会の組織強化、案内所の整備でとめるのではなく、基本的にどのようなサービス産出量増があったかを測定できないだろうか。 ・観光事業に関する市民満足度という指標が妥当かどうか、検討される必要があるように考えます。市民の観光資源に対して求めるものと、来訪者の求めるものと違いがあるような気がします。 ・レンタルサイクル利用者やロゲイニング大会参加者の減少を増加させるための関係部署との連携が望まれる。 ・サイクリストの姿を以前より多く見かけることがあり、数値を裏付けている。この事業を含め、要素事業③、④においても河内長野市は府内において犯罪発生率が一番低く、安心安全なまちであることを何らかの形で表現できなかなと思う。
	③地域ブランド推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランドプロデュース、プロモーションは一定の確固とした戦略と行動が必要だが、その推進母体、責任体制はどうなっているのだろうか。 ・今後も、新たな製品と6次産業化に取り組まれることを期待します。 ・6次産業に取り組む農家が増加したことは、評価できる。イベント応募者についても増加している。 ・「奥河内フルトラリー」は有効（特に女性）だと考える。内容の充実を今後とも期待したい。
	④森林への関心向上プログラム推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド戦略として要素事業③と同じ感想を持ちます。各部局がバラバラに取り扱っているのだろうか。 ・今後も、木のある暮らしの提案を展開されることを期待します。ふるさと納税・返礼品のバリエーションが豊かになることも期待しています。 ・地元材の認知度向上につながる取り組みは評価できる。事業などに幅広い住民の参加が望まれる。 ・森林資源を有する市町村は府内において数少ないと思うので、有効な活用はぜひ推進していく必要がある。
	⑤経営基盤整備に係る事業者支援等	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 3 ・要検討 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画事業の観点との連携が見えない。事業者支援とのカテゴリーに合致するか。女性の「就労」だけを政策目標とすることの危うさも感じる。 ・女性の活躍サポートと事業タイトルの奥河内観光地域づくり推進事業との関連が判りにくいところがあるのですが、河内長野市の魅力アップに対して、女性の就労や活躍がどのように貢献しているかという理解でよいのでしょうか。そうであれば少し見えづらいところがあるように考えます。また、女性の就労のニーズも多様な気がしますので、広い視野から考えることも必要かと思えます。 ・就職に結びつくケースが多く見られたことについては評価できるが、その後の離職率や就労状況等長期的視点で見守る必要がある。 ・経営基盤整備に係る事業者支援という事業内容から、産業観光課が所管するのは理解できる。ただ、男女共同参画社会の構築という観点から人権推進課との連携が組織的に不可欠ではないかと考える。
「丘の生活拠点」(南花台)自立化推進モデル事業	①「丘の生活拠点」(南花台)自立化推進モデル事業	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた取り組みであると思う。ただし、「小規模多機能自治システム」の追求と思うが、市内の特性が異なる他の地域に向けて、モデルの取り組みがどのようなメリット(波及効果、教材としても)があるか、位置付けがなされている必要がある。また、この地域の経営を担う協議会的組織があるのか。組織図は。次に600万円の予算は、どのように使われているのか。 ・コノミヤテラスを飛び出して石仏地区にアウトリーチしておられるなど事業展開が進められていることが判りました。地域まちづくりコーディネーターの発掘について、当面は地域の既存の役職者が関わるというのは仕方ないが、将来的には、新たな人材の発掘が求められてくると考えます。また、地域づくりをしてくださる人材については、コアとなる人を考えてしまいますが、いかに広く、薄く(ちょっと手伝ってあげる程度の人)広げられるかという視点も必要になると考えます。集われている人たちの声をどのように反映されているのでしょうか。ぜひ今後も展開を進めていかれることを期待します。 ・自立運営体制の構築に尽力されたい(地域住民による地域住民のためのまちづくり)。 ・少子高齢化に向けた取り組みが、前衛的に実践されている。買い物支援から生活支援への取り組み拡大ひとつについても地域の実情をしっかりと把握する中から自発的に生み出されたものである。事業の課題解決を図りながら、さらなる成果へと繋げていくようにしていただきたい。